

THE ROTARY CLUB OF CHOSHI

# 銚子ロータリークラブ会報

国際ロータリー第2790地区

創立 昭和32年3月23日

RI承認 昭和32年4月15日

会長 宮内 秀章

副会長 田中 英子

幹事 寺内 忠正

会計 常世田 祐一

2019-2020年度 RI会長テーマ

ロータリーは世界をつなぐ

ROTARY CONNECTS THE WORLD

RI会長 マーク・ダニエル・マローニー

Rotary



例会日時 毎週水曜 12:30～

例会場 銚子商工会館5階大会議室

事務所 銚子市三軒町19-4

銚子商工会館4階

電話 0479-23-0750

ファクス 0479-25-8789

E-mail rotary@choshinet.or.jp

URL <http://www.tcs-net.ne.jp/~crc/>

第3052号(2019年8月7日発行)

## 今週のプログラム

「第2回世界米山大会

-絆inモンゴルに参加して」

宮内 龍雄国際奉仕委員長

## 前回例会報告(7月31日)

銚子RC・銚子東RC公式訪問合同例会

点 鐘:宮内秀章会長

国 歌:君が代斉唱

ロータリーソング:奉仕の理想

四つのテスト唱和

お客様紹介

国際ロータリー第2790地区

2019-20年度 ガバナー 諸岡 靖彦様(成田RC)

地区副幹事長 神崎 誠様(成田RC)

第8グループガバナー補佐

石井 哲也様(銚子東RC)

補佐幹事 藤崎 一成様(銚子東RC)

## 会長挨拶

本日は国際ロータリー第2790地区ガバナー諸岡靖彦様、地区副幹事長神崎誠様、第8グループガバナー補佐石井哲也様、補佐幹事藤崎一成様ようこそお越しいただきました。本日はガバナー公式訪問ということで、銚子クラブ・銚子東クラブとの合同例会となります。諸岡ガバナーにおかれましては、卓話そしてクラブ協議会と宜しくお願い致します。

それではまず初めに先週からの活動について報告いたします。25日(木)から29日(月)まで宮内龍雄国際奉仕委員長をはじめ高瀬米山記念奨学委員長、高橋 SAA、大里職業奉仕委員長、金島直前会長、寺内幹事と私7名で、モンゴルのウランバートルで行われました米山奨学生学友会第2回世界大会「絆 in モンゴル」に参加してまいりました。

モンゴルという壮大な地で行われたこの大会では、学友会の皆さんの活躍ぶりを拝見し、非常に感動してまいりました。詳しくは後日参加メンバーより報告させていただきますので、どうぞお楽しみにお待ちしております。

つづいて昨日30日は規定審議会報告会に島田パスト会長に出席いただきました。こちらも後日報告いただきたいと思ひます。

さて、本日は国際ロータリーのテーマについて少しお話しいたします。国際ロータリーのテーマとは、RI会長から毎年度発表されるロータリーメッセージのことで、このテーマは、ロータリー年度を通じて、奉仕の実践に最も重要なものとされています。また、テーマはRI会長の抱負を明瞭に物語ると共に、そのロータリー年度の方向を示すものでもあります。このテーマという形は1949-50年度のパーシー・ホジソン会長のとき初めて「テーマ」として出されたそうです。



会長・幹事懇談会 会議所会頭室

第2790地区  
ガバナー 諸岡 靖彦 (成田RC)

広報・会報委員会  
委員長 石毛 英俊 副委員長 山崎 芳樹  
委員 大岩 將道

今年度のテーマは、「ロータリーは世界をつなぐ」そしてそのテーマの下、2790地区諸岡ガバナーのスローガン「ロータリーから千葉を元気に」とあります。是非我々も、その方向性を迷うことなく進んで行かなければなりません。そのためにもまず自クラブが元気になるということが大切だと考えます。本日の諸岡ガバナーのお話を聞きまして、1歩でも前に進めるよう取り組んでまいりたいと思います。以上で挨拶と致します。

#### 幹事報告【週報拝受】小見川RC、波崎RC

1. ポリオピンバッチの贈呈
2. 財団室 NEWS 2019年8月号
3. RID2790 フェローシップ委員会スリランカクラブ卓話のお願い  
…ガバナー事務所
4. 2019-20年度ロータリーの友 手引書  
…一般社団法人ロータリーの友事務所

#### 【例会変更】

八日市場RC

8月13日(火) お盆の為、休会

8月27日(火) 10:00~移動例会(職場訪問)  
例会場及び時間の変更

匝瑳市横芝光町消防組合匝瑳市消防本部  
旭RC

8月16日(金) 定款第7条第1節(C)により休会

23日(金) 夜間例会 点鐘 18時30分

30日(金) 定款第7条第1節(C)により休会

#### 卓話

「国際ロータリーの現在とこれから」

国際ロータリー第2790地区

2019-20年度ガバナー 諸岡 靖彦様



本年度当地区ガバナーを務めます 諸岡 靖彦(成田ロータリークラブ)です。本日は国際ロータリーの現況と、来年10月に100周年を迎えます日本のロータリーの実情についてご報告する同時に、私のロータリーに対する考え方を中心にお話しさせていただきます。

ロータリークラブ(RC)は、その会員であるロータリアンによって構成され、一方、国際ロータリー(RI)は、RCに

よって構成されます。ロータリーの創設者 P.Harris(1868~1947)は資本主義社会の勃興期の、商業道徳が忘れられてしまった1905年に、米国シカゴの街に信頼と友情の仲間を増やしたいという趣旨で RC を創りました。親睦と相互扶助が初期の目的でしたが、奉仕という目的を加えることによって全米に拡がり、国境を超え、今では200以上の国と地域に、クラブ数3万6千、会員120万人を数える世界有数の奉仕目的団体となりました。こうした世界中のクラブの連合体を RI と称しています。ロータリーは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりで、世界に目を開いて幅広い奉仕活動を国際社会に、地域社会に展開しています。

このようにロータリーは奉仕という基本目標の下に、世界中に会員基盤を有し、クラブを、地域を、世界をリードしています。ロータリーの活動を確固たるものにしてゆくためには、一人一人のロータリアンがロータリーを熟知して、私たちが所属するクラブをより効果的なクラブに成長させることが大切です。クラブを構成する一人一人のロータリアンがリーダーシップを身につけ、会員組織を強くして、社会が必要とする奉仕活動を継続させてゆくことがロータリー活動の課題です。

本年度 RI の Mark D. Maloney 会長は、ここ20年間の会員総数が120万人のバルドで推移していることを停滞と断じました。情報化と交通手段の格段の進展がグローバル化を進め、世界の動きがより早く、狭くなっています。他方で地域紛争が長く尾を引き、経済や通商分野には対立と分断が進み、世界中がバランス感覚を失っています。「あと少し」に迫ったポリオ根絶にも、時間とカネがまだ掛かりそうです。マローニー会長は、かつてないほど分断化された世界に繋がりを取り戻すことができるのはロータリーであると断言します。ロータリーはより健康的で、平和で、持続可能な世界に向けた国連とのコミットメントを有し、他の組織には見られない平和と相互理解という精神の下に世界中の人々が繋がることが出来、目標に向かって意義ある行動を起こすことの出来るインフラを有しています。今こそロータリーの出番です。ロータリーの組織としての勢いを回復させ、地域社会や家庭、職域に新しいつながりを創り、世界をつなぐことがロータリーの使命です。こうした背景から、マローニー会長は『ロータリーは世界をつなぐ』 ROTARY CONNECTS THE WORLD のテーマを打ち出されました。

私はマローニー会長のテーマを受けて、「ロータリーから千葉を元気に」のスローガンを掲げました。千葉を元気にするためには地区内クラブが元気にならなければなりません。私の使命はクラブを鼓舞し、クラブを元気にすることです。地区組織の総力を挙げて、クラブを元気にします。

さて、ご参集のロータリアンの皆様に投げかけてみたい話題があります。皆様ご自身にとってロータリーの魅

力とは何でしょう、ローターを続けている理由は何だ  
とお思いになるのでしょうか？ 来年 10 月に日本にロ  
ーターが生まれて 100 周年を迎えます。「日本のロー  
ター 100 周年実行委員会」が一昨年全国の RC に対  
して意識調査を行いました。この中に日本人ローター  
ンの意識を探ることができます。（この詳細は「ロー  
ターの友」2017 年 11 月号に掲載）

上位 6 番目までの理由を拾ってみますと ①異  
業種交流ができる ②生涯の友人・仲間ができる  
③自己研さんと学習・成長の機会 ④例会が楽し  
い ⑤奉仕活動ができる ⑥心からの親睦が得ら  
れる… となっています。奉仕活動への期待より  
も、他人との関わりを大切にしている、という結果  
でした。皆様の場合はいかがでしょうか？

私の考えですが、「出会いの妙」、それがローター  
の魅力の第一です。2010 - 11 年度にクラブ会長を務  
め、その後地区へ出るようになってから、殊に多様  
な地区ローターンとの交流が楽しみになりました。  
GND、GN、GE と年々立場がガバナに近づくに  
つれて、シア・リーダーといわれる方々や PDG と接す  
る機会が増えて、様々な人間像、彼らの奉仕活動の  
体験談、立ち居振舞い、リーダーシップのあり方を垣間  
見てきました。ローターンは対等です。ローターの会合で  
は、公式、非公式に関わらず対面すればどんな著名  
な方とでも対等なお付き合い、お話を交わすことが  
できます。「ローターに No! は無い」とよく言います  
が、回ってきた役目はお受けするのが良いと思ひ  
ます。ローターを学び、自分の世界を広げるチャンスだ  
と思ひべきです。苦手な分野であっても、ポジティブ  
に受け取るべきです。不安な気持ちが準備を進め、  
問題意識を高めます。例会や奉仕活動では、意識し  
て年代の違う会員、職業分類の全く違う会員との  
交流が視野を広げ、感性を刺激します。RI の青年  
プログラムは年齢層によって設定が変わりますが、  
IAC、青少年交換、RYLA、RAC に参加しますと、  
ローターファミリーの幅の広さと若い力に教えられま  
す。ものの見方、考え方そして何よりもローター観が養  
われます。このほかにもローターの世界的ネットワークの凄  
さ、R 財団や米山奨学会の資金力は奉仕活動にとって、  
大きな原動力であり、その事業に惚れこめば健全  
で素直な寄付協力に近づけると思ひます。

ローターの全体像を絵にして表現すると、どんなこ  
とになるのでしょうか！『ローターの樹』をご覧ください。



青木貞雄がバナー年度の 2016 年の地区大会に RI 会長代理で当地区に派遣された渡辺好政 PDG

が RI 理事をお務めの 2006 - 07 年度の頃に持論を  
展開したというのがこの図表です。樹を育て、森を  
創る発想は日本人の自然観によく嵌ります。森を  
征服して街を切り拓くという西欧人の感性との差  
が見て取れます。土壌（中核的価値観）があつて、  
根（R の理念）があるから幹（R の目的）は育ち、  
幹を太らせれば枝葉（五大奉仕活動や 6 つの重点  
分野）が広がり、陽光を浴びて果実（R 財団）が  
実り、全体景観としての R の公共イメージが向上  
する…というものです。

この『R の樹』から様々なことがインスピレーションが  
生まれます。ローターンは「個」からスタートして自学（楽）  
自習して、個のリーダーシップを養ひます。樹を大きく  
育ててゆくには高潔性という土壌が特に大切です。  
ローターがローターであるためには、職業倫理に従つて  
得た経済力が個人の奉仕活動の原動力になるから  
です。「クラブ」が地域社会に働きかける要件として、  
クラブが元気でなければ地域に対して健全な提案や  
リーダーシップが発揮できません。会員基盤を多様化さ  
せて、クラブを持続的に盛り上げてゆくことが大切  
です。クラブの活動計画は奉仕活動も親睦も絆を創  
るための相互の存在と役割を認め合つて、何れの  
活動だけではなく、上位の目的を共有し合うヨコ  
ワリのクロス・プロモーションを意識して動かなければなり  
ません。この樹を持続的に、いかに強く育てるか  
は、戦略計画の課題です。樹を育て、森を如何に創  
ってゆくかはクラブ会員全体の総意に関わります。  
全会員の討議で森を創るビジョンを構想してくだ  
さい。ビジョンができたなら毎月の、毎年の作業計画  
を創つて、実行してください。半月後、1 年後の実  
行チェックは欠かすことのできない、次のステッ  
プに向かう大事な振返りです。こうして樹が育て  
ばローターの活動はますます意義深くなり、楽しくな  
ることでしょう。

ところで、世界のローターと日本のローターにはギャ  
ップが生じている、ということをお聞きになってい  
まいませんか？ 日本のローターンが重視する職業奉仕（実  
は、日本人ローターンがこだわっているのは職業「倫  
理」のようです）は、世界中の何処へ行つても通じ  
ないというのです。職業奉仕とは職業上持ち得た  
専門知識や技能を生かして社会奉仕に貢献すること  
だと、世界は考えているようです。職業奉仕を特別  
なローターを動かす土台としては考えていないの  
です。先の規定審議会で RAC を RI の会員として  
認める件や、例会の欠席補填（メークアップ）を当年度以  
内とする緩和決定には驚きました。しかしこの狭  
い日本列島で 2000 年もの永い間、自然神信仰（神  
道）、仏教、儒教を自生的に「餅をこねるように」創  
り、武士道や商人道に形成し、実践してきた日本人  
の思想の風土を考えれば、職業奉仕の重視というス  
トラスは軽率なホスピタリティよりも遥かに重いもので  
す。日本のローターがガラパゴスとか、周回遅れで走つてい

るという評価はいただけるものではありません。来年に迫った日本のローター 100 周年では、ローターという米国建国期ピュリタンの思想潮流を、日本人の風土、文化になじむよう取り入れてきた社会運動として正しく評価されるべきものだと思います。如何でしょうか。

さて、これからのローターの方向はどうなるのでしょうか？5月から日本の元号が「令和」と改元されました。明治以降の大正、昭和、平成の150年はおよそ30年ごとに登り坂と降り坂を交互に経験してきました。平成の30年間の日本は、バブルの崩壊以後世界同時不況、大震災や自然災害がつづいて、降り坂の30年でした。外に目を向ける産業分野もありましたが、大多数の内向きな日本人は「井の中の蛙」と化しました。政府は内需を高めるために躍起になって財政出動しますが、国の借金が膨らむだけでした。人件費は少しは上昇しましたが、生産性は目立って改善するわけではなく、低成長（時にはマイナス成長）がつづいています。

令和の時代には、もっと大らかに、日本人が持つ相手に心を寄せる優しさが発揮される時代になって欲しいと思います。そしてもっと国際社会に出て、世界に貢献できる日本人の活動に期待したいと思います。そのためには、ローターと同じように、日本の国家戦略をもつことが必要です。先ごろ経済同友会が発表した『危機感なき茹でガエル日本——過去の延長線上に未来はない——』の、日本再生の処方箋をご紹介します。三次元の図表で表わせば、X軸＝経済の豊かさの実現、Y軸＝イノベーションによる未来の開拓、Z軸＝社会の持続可能性の確保、という社会の、近視眼ではない30年、50年後を見通した構想を基本として、そこに到る道筋を考えなければならない、ということです。令和の時代を、「敗北と挫折」の平成の30年の延長と思うのではなく、危機感を持って、日本人の繊細な感性を生かせる健康長寿、地球環境、持続可能性を構築する分野などで世界のトップを目指すべきです。

1月のサンディエゴのRI国際協議会で、GEとしてGETSに参加したとき、会場の入り口に掲げられていた標語は Join Leaders ,Exchange Ideas ,Take Action! … 「リーダーを集め、意見を交換し、行動に移せ！」でした。かつてのそれは、Enter to Learn ,Go Forth to Serve! … 「入りて学び、出でて奉仕せよ」でした。標語が変わったことの意味する所は、RIが戦略計画を構築するための姿勢を示しているのもであると理解します。リーダーを集めて、意見を交換して、そして行動する、ということです。これがRIのこれからの行き方です。

以上で「RIの現在とこれから」というお話を終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。

## クラブ協議会 13:40～15:10

- 第1部 会長方針・各委員会活動計画発表
- 第2部 直前会長からクラブの課題と対策等発表
- 第3部 質疑応答



### 【出席報告】

会員総数 39名 出席計算 34名  
 出席 29名 欠席 5名  
 出席率 85.29%  
 欠席者：村田君・大里君・鈴木君・高橋宏明君  
 富永君

### 【M U】

8/1 RAC例会 島田君・須永君・寺内君  
 8/6 銚子東RC 大岩君

### 【ニコニコ】 合同例会のためなし

次週14日は休会です。

次回（8月21日）のプログラム  
 「会員増強・新クラブ結成推進月間に因んで」  
 地区会員増強・維持拡大委員会  
 委員長 諸岡 正徳様(成田RC)